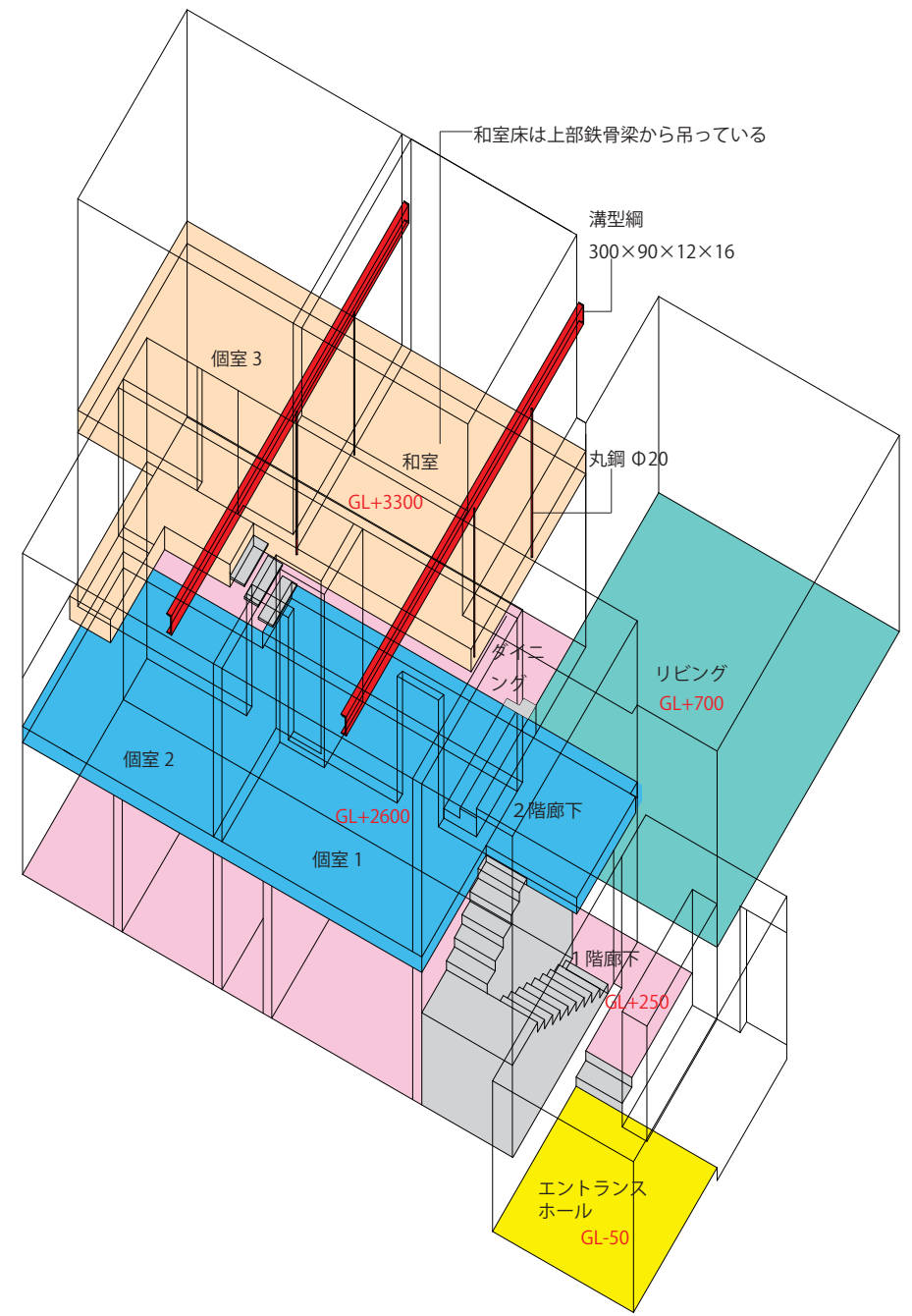






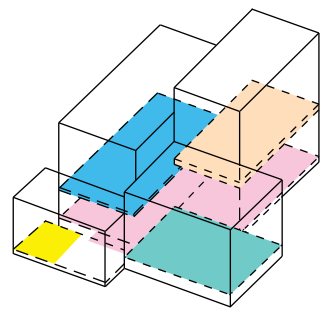
断面パース



内部構成アクソノメトリック図



断面図 S=1/200



空間構成ダイアグラム

山手の家

緑豊かな住宅街に建つ核家族のための住宅。クライアントは写真や家具のコレクションが趣味で、コレクションと家族の生活が混ざり合い、物と家族の気配が家のどこからでも感じられる暮らしを希望した。

敷地は浜松市の高台の住宅地で、周辺の土地も含め、敷地は道路から1m-2m程度高くなっていて、敷地ごとに段の高さはバラバラで、それがとても心地よく近隣の距離感をつくっていると感じた。この段のある環境と連続するように、外部で3つの高さの段、内部で5つの高さの段をもつ住宅をつかった。内外のレベル差によって、アイレベルだけでなく、斜め上方向や斜め下方向に視線が抜け、コレクションや生活や庭が混ざり合った状態を色々な方向から眺めることができる。内外ともに左官仕上げのテクスチャーの肌理に変化をつけることで、遠近感が変化し、思いがけない部分が近く感じたり、また逆に実際の距離よりも遠く感じたりする。この立体的な構成により、視線だけでなく光や空気も室内を連続していく。上部の開口部からの光が拡散しながら吹き抜けから落ち、家全体を明るくしたり、上昇気流を利用して2階上部で換気ができたりと、室内環境もこの吹き抜けを通して連続する。生活と、コレクション、そして環境が立体的に混ざり合う住空間を目指した。



1階リビングからダイニングと2階和室を同時に見る。和室の床は上部鉄骨梁より丸鋼で吊られている



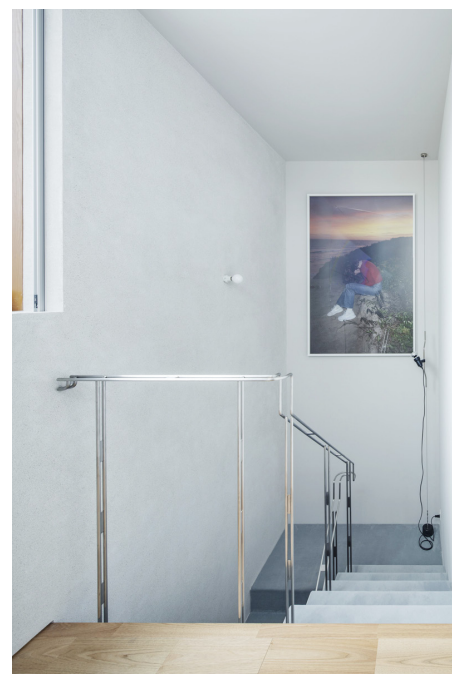
吊り床端部



1階ダイニングからリビングと2階廊下を見る



1階リビングから2階廊下を見る



2階廊下から階段を見る



2階廊下から1階リビングを見る



2階廊下から南方向を見る。左手は和室



2階和室の床スリットからリビング越しに南庭を見る



南ファサード



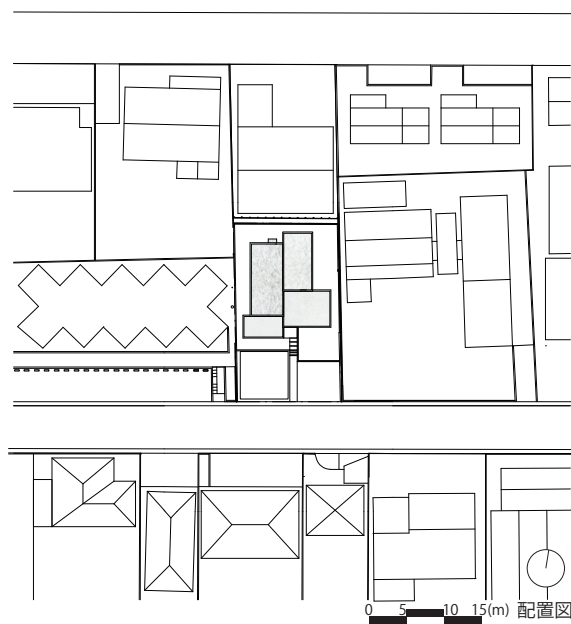
周辺は敷地ごとに異なる地盤高さとなっており、それによって自然と目線がずれるような関係ができていた



南庭と東隣地庭が視覚的に連続する

東庭

北庭と北西隣地庭が視覚的に連続する



0 5 10 15(m) 配置図

バラバラの高さの段の街

敷地は台地を造成した住宅地で、周辺の土地も敷地も、道路から1m-2m程度高くなっている。土地によって高さはバラバラである。この段のある環境と連続するように、外部で3つ、内部で5つの高さの床レベルをもつ住宅をつくった。



敷地周辺の様子

様々な要素が離れつつつながる

内外のレベル差によって、斜め上や下に視線や空気が抜けていき、家族の生活、写真作品、庭の風景、落ちてくる光、スピーカーから広がる音が混ざり合った状態を様々な角度、距離から体験することができる。家を構成する要素のすべてがバラバラの距離感を保ち、かつ繋がっている空間をつくった。



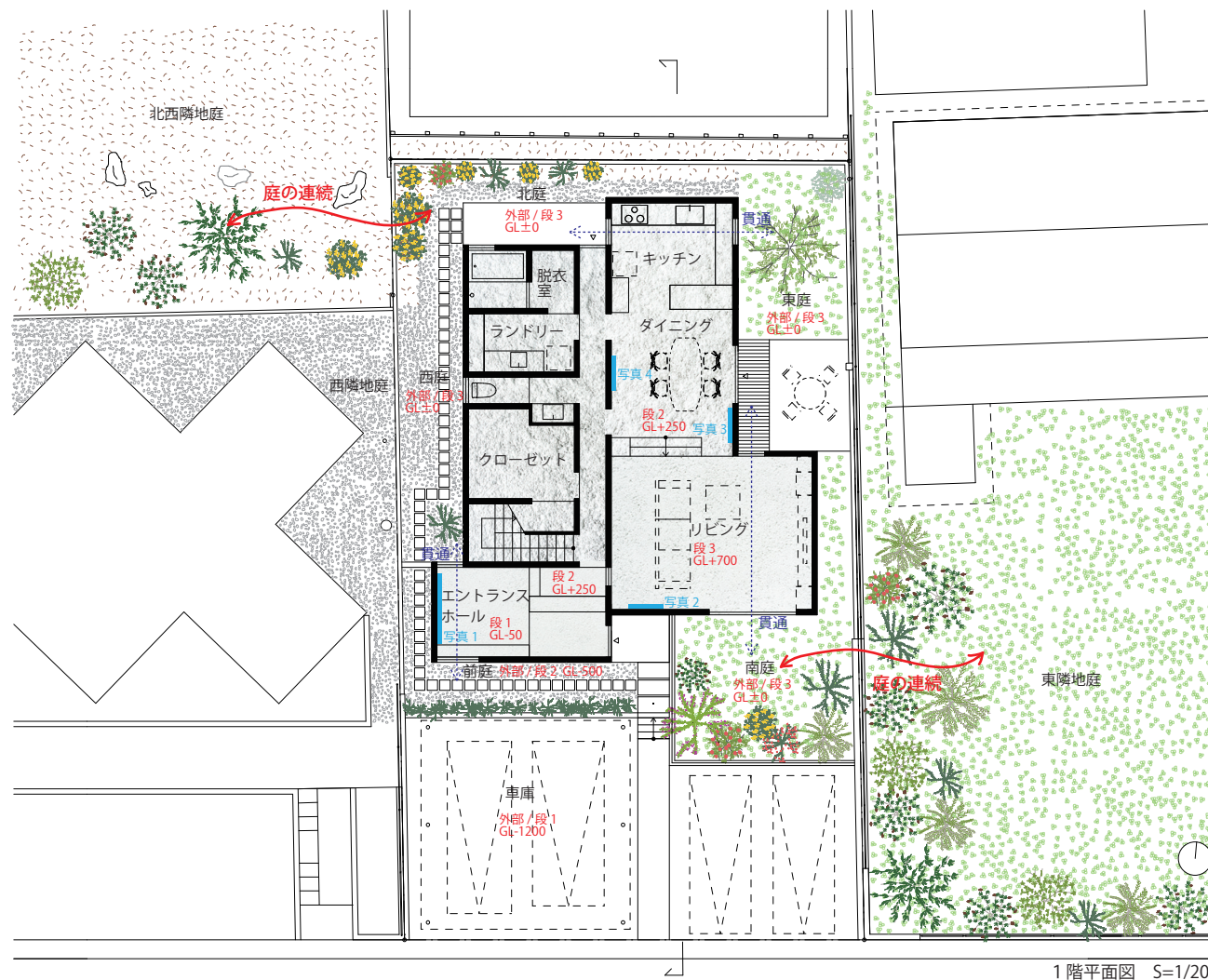
南ファサードを拡大した様子。手前から1段目、2段目、3段目、4段目



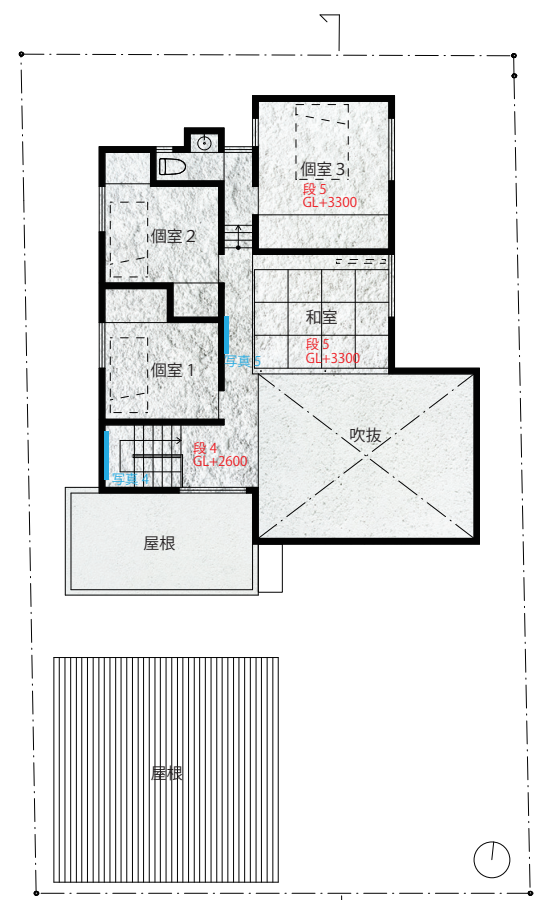
1段目外壁 2段目外壁 3段目外壁 4段目外壁

肌理の変化

4つの箱が重なった外観は、手前から奥に向かって外壁に使ったモルタルの肌理が粗くなるように掻き方を変えたり、古典的なササラでモルタルを飛ばし付ける技法を使ったりして、変化をつけた。通常、奥に向かって小さく見えるところが逆にパースがかかることになり、距離感が揺さぶられ、どこに面があるのかの手がかりがなくなる。



1階平面図 S=1/200



2階平面図 S=1/200

庭の連続と貫通

古い住宅街ということもあって、東と北西隣地の庭が、緑豊かで広々とした、とても気持ちの良い庭だった。そこで敷地内の小さな庭を、隣地の豊かな庭と連続させるようにつくった。隣地の古いフェンスの意匠を参照してフェンスを作ったり、地面の高さや仕上げを揃えたりすることで、敷地境界を超えて一つに連続しているように感じられる庭とした。建物の4つの箱の凸になった部分は窓を壁の両側に設け、建物越しに庭から庭へ貫通するような視線の抜けを確保した。建物の中からだけでなく、庭から庭へ視線が抜けることで、行き止まりのない、伸びやかな住空間をつくらうとした。